

岩手県立病院常勤医師数の推移と臨床研修制度導入の影響

マツシマ ダイ 松嶋 大*1 オカヤマ マサノブ 岡山 雅信*2 マツシマ エリコ 松嶋 恵理子*4 カジイ エイジ 梶井 英治*3

目的 全国で最も県立医療機関が多い岩手県を対象に、自治体病院常勤医師数の推移、臨床研修制度導入による自治体病院常勤医師数への影響の2点を明らかにすることを目的に調査を行った。

方法 対象は平成17年3月31日時点のすべての岩手県立医療機関である。調査項目は、平成8、14、16年度の各対象の病床数、病床利用率、1日平均入院患者数、1日平均外来患者数、常勤医師数である。さらに比較のため、平成8、10、12、14、16年度の岩手県内および盛岡市内の医療施設従事者数、盛岡市内診療所数のデータを入手した。すべての項目について年度ごとに、医療機関別および2次医療圏別に単純集計を行い、比較検討した。

結果 対象医療機関（以下、岩手県立病院）は27施設で、すべて病院であった。岩手県立病院全体の常勤医師数は、平成16年度（518名）は8年度（501名）からは増加していたが、14年度（531名）よりは減少した。病院別には、平成8年度から16年度にかけて一貫して常勤医師数が増加した病院は3施設のみであった。また、平成14年度（研修制度導入前）から16年度（研修制度導入後）にかけて、常勤医師数が増加した病院はわずか4施設のみであり、13施設で減少した。2次医療圏別には、平成8年度から16年度にかけて一貫して増加したのは3医療圏のみであり、2医療圏では一貫して減少していた。平成8年度を基準とした16年度時点の岩手県立病院常勤医師数の増加率は3.4%であり、同期間の全国（11.5%）と比較すると、岩手と全国との間に増加率の大きな差を認めた。なお岩手県内の医師数増加のほとんどが盛岡市（県庁所在地）に集中していた。

結論 岩手県立病院の常勤医師数は、平成8年度から16年度にかけてわずかに増加しているものの、その増加の程度は全国と比較して低く、医師数増加（推移）に都市部と地方の格差（地域偏在）がある。また、岩手県立病院では臨床研修制度導入前後で常勤医師数が減少しており、同制度が常勤医師数の増加の減速因子となっている可能性がある。

キーワード 自治体病院、医師不足、医師偏在、新医師臨床研修制度、岩手県

緒言

日本各地で医師不足が問題となっている¹⁾⁻⁴⁾。とりわけ地方の自治体病院で医師不足が深刻といわれ、そのため診療機能の縮小や廃止に追い込まれた施設も少なくない⁴⁾⁻⁶⁾。しかし、地方

の自治体病院の医師不足や常勤医師数推移に関する調査は少ない。

また、平成15年に導入された新医師臨床研修制度（研修制度）は医師不足を顕在化させたとされる³⁾⁻⁶⁾。原因としては、研修制度導入により、大学病院から自治体病院への常勤医師の派

*1 自治医科大学医学部大学院医学研究科博士課程 *2 自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門准教授

*3 同教授 *4 国民健康保険藤沢町民病院内科

遣中止（医師の引き上げ）が相次いだためといわれている³⁾⁻⁶⁾。ただし、研修制度導入による自治体病院医師数への影響に関する調査はない。

図1 岩手県立病院所在地および二次医療圏

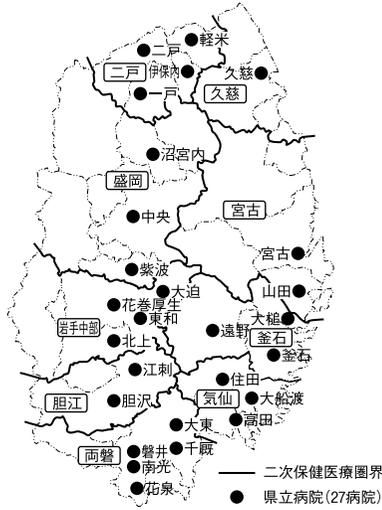


表1 岩手県立病院別概要

	病床数 ²⁾	病床利用率(%)			外来患者数 ⁴⁾		
		平成8年	14	16	平成8年	14	16
総数	5 984 ³⁾	-	-	-	18 654.2	17 013.0	13 567.0
中央	730	90.2	84.5	85.9	1 646.2	1 389.0	1 231.0
沼宮内	60	53.7	63.3	63.3	236.6	203.0	152.0
紫波	65	85.2	75.4	72.3	210.8	159.0	127.0
花巻厚生	257	83.5	78.6	61.9	937.7	732.0	411.0
北上	260	89.8	81.9	75.0	905.6	843.0	656.0
東和	71	97.2	102.8	102.8	214.2	162.0	147.0
大迫	52	77.9	50.0	59.6	250.8	186.0	137.0
胆沢	351	90.8	92.9	91.2	1 070.3	1 240.0	1 115.0
江刺	210	86.0	66.7	63.3	819.8	623.0	521.0
磐井	305	84.6	86.9	85.2	973.3	847.0	761.0
千厩	194	78.6	94.3	91.2	691.7	750.0	588.0
大東	124	67.0	62.1	62.9	289.0	234.0	169.0
花泉	75	71.7	62.7	65.3	279.6	207.0	145.0
南光	408	100.6	93.6	95.3	219.2	210.0	202.0
久慈	342	73.8	81.4	87.7	1 446.2	1 374.0	1 101.0
二戸	300	85.7	74.0	75.7	1 059.3	1 058.0	851.0
一戸	326	53.1	79.1	91.7	711.7	723.0	596.0
軽米	105	74.1	60.0	87.6	304.7	223.0	161.0
伊保内	45	86.3	75.6	84.4	176.5	161.0	161.0
北陽 ¹⁾	250	89.8	-	-	116.9	-	-
宮古	404	86.9	86.9	79.2	1 397.4	1 256.0	928.0
山田	72	70.8	47.4	61.1	488.0	352.0	230.0
釜石	272	76.7	82.7	80.9	897.1	883.0	699.0
遠野	221	74.5	64.7	66.1	736.2	737.0	687.0
大槌	121	88.9	95.0	89.3	401.4	405.0	290.0
大船渡	479	86.9	87.5	81.2	1 463.8	1 562.0	1 194.0
高田	70	62.3	53.7	65.7	510.4	319.0	191.0
住田	65	56.8	53.8	52.3	199.8	175.0	116.0

注 1) 平成12年に一戸病院と合併
 2) 平成16年度（北陽病院のみ平成8年度）
 3) 北陽病院を除いた病院の合計
 4) 1日平均であり、単位は人である。

そこで今回、全国で最も県立医療機関が多い岩手県を対象に、自治体病院常勤医師数の推移、臨床研修制度導入による自治体病院常勤医師数への影響の2点を明らかにすることを目的に調査を行った。

方法

調査対象は平成17年3月31日時点のすべての岩手県立医療機関である。調査項目は、各対象の常勤医師数、病床数、病床利用率、1日平均入院患者数、1日平均外来患者数で、それぞれ平成8、14年度（研修制度導入前）、16年度（研修制度導入後）のデータを入手した。さらに、比較のため、岩手県および盛岡市（県庁所在地）のそれぞれの医療施設従事者数と盛岡市内診療所数に関して、平成8、10、12、14、16年度のデータを入手した。各データは、岩手県立医療機関に関するものは岩手県医療局、その他は厚生労働省統計表データベース⁷⁾からそれぞれ入手した。すべての項目について年度ごとに、医療機関別および2次医療圏別に単純集計を行い、比較検討を行った。なお、臨床（初期）研修医は、研修制度導入前後に関わらず常勤医師数に含めなかった。

結果

(1) 対象・病院別概要（図1、表1）

対象医療機関（以下、岩手県立病院）は27施設（すべて病院）で、9つの2次医療圏に分かれていた。岩手県立病院の全病床数は5,984床で、岩手県の全病床数19,913床（平成16年度）の30.1%に当たる。病床種別の内訳は、一般病床4,880床（81.6%）、精神病床738床（12.3%）、療養型病床174床

表2 岩手県立病院別常勤医師数の推移

	常勤医師数(人)		
	平成8年	14	16
総数	501	531	518
中央	97	102	104
沼宮内	4	4	4
紫波	3	5	5
花巻厚生	23	20	18
北上	29	32	28
東和	3	4	5
大迫	3	3	3
胆沢	38	46	49
江刺	12	10	10
磐井	37	36	36
千厩	13	16	12
大東	6	7	6
花泉	3	4	3
南光	12	15	14
久慈	30	39	42
二戸	27	28	27
一戸	11	16	14
軽米	6	5	5
伊保内	3	3	4
北陽 ¹⁾	6	-	-
宮古	42	43	43
山田	5	5	3
釜石	21	21	20
遠野	12	10	11
大槌	6	6	5
大船渡	37	41	40
高田	10	7	4
住田	2	3	3

注 1) 平成12年に一戸病院と合併

表3 2次医療圏別常勤医師数の推移

	常勤医師数(人)		
	平成8年	14	16
総数	501	531	518
盛岡	104	111	113
岩手中部	58	59	54
胆江	50	56	59
両磐	71	78	71
久慈	30	39	42
二戸	53	52	50
宮古	47	48	46
釜石	39	37	36
気仙	49	51	47

表4 岩手県立病院と盛岡市、岩手県、全国の医療施設従事者数の比較

	全国		岩手県立病院		岩手県		盛岡市	
	医師数 (人) ¹⁾	増加率 (%)	常勤数 (人)	増加率 (%)	医師数 (人) ¹⁾	増加率 (%)	医師数 (人) ¹⁾	増加率 (%)
平成8年	230 297	-	501	-	2 263	-	995	-
14	249 574	8.4	531	6.0	2 337	3.3	1 022	2.7
16	256 668	11.5	518	3.4	2 342	3.5	1 051	5.6

注 1) 医療施設従事者

2) 増加率 = 平成14 or 16年度 / 平成8年度

(2.9%), 結核病床168床(2.8%), 感染症病床24床(0.4%)である。

病床利用率は、平成8年度から14年度には10施設で増加し、16施設で減少していた。一方、平成14年度から16年度にかけては13施設で増加し、12施設で減少した。さらに平成8年度と16年度を比較すると、11施設で増加したのに対し、16施設で減少していた。

外来患者数(1日平均)は、平成8年度から14年度にかけては6施設で増加していたものの、平成14年度から16年度については26施設で減少していた。平成8年度と16年度を比較すると、胆沢病院を除く26施設で減少していた。

(2) 常勤医師数について

1) 岩手県立病院別常勤医師数の推移(表2)

岩手県立病院全体の常勤医師数は、平成8年度(501名)から14年度(531名)にかけては増加したが、14年度から16年度(518名)は減少した。また、平成8年度から16年度にかけては増加していた。

病院別にみると、平成8年度から14年度にかけては15施設で増加した一方で、減少した施設は6施設にとどまった。しかし、平成14年度から16年度にかけては、増加施設が6施設にとどまり、13施設では減少した。また平成8年度と16年度を比較すると、11施設で増加し、11施設で減少した。なお、この8年間で一貫して増加傾向にあったのは4施設のみであった。

2) 2次医療圏別常勤医師数の推移(表3)

平成8年度から14年度にかけて7医療圏で増加した一方で、14年度から16年度にかけて増加したのは3医療圏にとどまった。また平成8年度と16年度を比較すると、8年間で一貫して増加したのは盛岡をはじめ3医療圏のみで、二戸、釜石の2医療圏では8年間で一貫して減少していた。

3) 岩手県立病院と盛岡市、岩手県、全国の医療施設従事者数の比較(表4)

平成8年度を基準とした16年

表5 病院と大学病院、診療所勤務医師数の比較

	病院勤務医師数(人)						診療所勤務医師数(人)						大学病院勤務医師数(人)			
	全国	増加率	岩手	増加率	盛岡	増加率	全国	増加率	岩手	増加率	盛岡	増加率	全国	増加率	岩手	増加率
平成8年	148 199	-	1 527	-	771	-	82 068	-	736	-	224	-	41 163	-	435	-
10	153 100	3.3	1 548	1.4	790	2.5	83 833	2.2	714	-3.0	204	-8.9	41 101	-0.2	423	-2.8
12	154 588	4.3	1 548	1.4	786	1.9	88 613	8.0	788	7.1	244	8.9	41 845	1.7	436	0.2
14	159 131	7.4	1 553	1.7	779	1.0	90 443	10.2	784	6.5	243	8.5	43 138	4.8	364	-16.3
16	163 683	10.4	1 556	1.9	799	3.6	92 985	13.3	786	6.8	252	12.5	43 423	5.5	437	0.5

注 1) 増加率(%) = 平成14 or 16年 / 平成8年

度時点の岩手県立病院常勤医師数の増加率は3.4%であり、この期間の岩手県全体の増加率3.5%と同程度であった。一方、同期間の盛岡市の増加率は5.6%と岩手県全体に比較して高値を示した。ただし、この期間に全国では11.5%増加しており、岩手と全国との間に増加率の大きな差を認めた。なお、本表の岩手県は盛岡市を含んだ数値であるが、盛岡市を含まない岩手県全体をみると、平成16年度は8年度と比較してわずか1.8%の増加率であり、岩手県の医師数増加のほとんどが盛岡市に集中していた。

4) 病院と大学病院、診療所勤務医師数の比較(表5)

平成8年度を基準とした16年度時点の全国の病院と診療所勤務医師数の増加率は、それぞれ10.4%、13.3%だった。一方、岩手県の病院は1.9%とほぼ横ばいであった。また、診療所(岩手県)は6.8%と増加していたが、全国より低かった。盛岡市では、病院勤務医師数の増加率は3.6%と全国よりも低いが、岩手県よりは高かった。また盛岡市の診療所勤務医師数は12.5%と全国と同程度の増加率だった。大学病院勤務医師数は、全国ではこの8年間に5.5%増加しているのに対して、岩手県では0.5%とほぼ不変であった(なお、岩手県の大学病院勤務医師数が平成12年の436名から平成14年の364名に大幅に減少している点について、直接当該大学病院事務に電話で問い合わせた。病院側で把握している当時の常勤医師数は430名前後とのことで、厚生省提示のデータとの間に不一致が認められた。不一致の理由は不明である)。

5) 盛岡市内診療所数の推移(表6)

平成8年度以降の盛岡市内診療所数は一貫し

表6 盛岡市内診療所数の推移

	盛岡市内診療所数(カ所)	増加率(%) ¹⁾
平成8年	245	-
10	246	0.4
12	254	3.7
14	258	5.3
16	273	11.4

注 1) 増加率 = 平成10, 12, 14 or 16年 / 平成8年

て増加していた。特に、研修制度導入前後、すなわち平成14年度から16年度にかけては高い増加率(5.3% 11.4%)であった。

考 察

(1) 岩手県立病院常勤医師数の推移

岩手県立病院の常勤医師数は、平成8年度から平成16年度にかけてわずかに増加しているものの、その増加の程度は全国と比較して低く、医師数増加に都市と地方の格差(地域偏在)があることが示された。さらに、この8年間(平成8~16年度)の医師数推移には二重の地域偏在を認めた。すなわち、第1に全国と岩手県で増加率に大きな格差があり、第2に岩手県内でも盛岡市と盛岡市以外での格差が存在した。Kobayashiら⁸⁾は、1970年代にわが国で医師不足解消のため医学部を大幅に新設した結果、医師の絶対数は順調に増加したものの、都市部の大幅な伸びに比較して、人口1万人未満の小さな自治体での医師数増加は限定的であったと報告し、医師数増加に地域偏在があることを示したが、本研究でも同様の傾向であった。

医師の絶対数は毎年4,000名程度ずつ順調に増加しているが、一体医師はどこで増えている

のだろうか。最近、開業志向が高まっていると言われている⁹⁾。岩手県の医師数の年次推移をみると、盛岡市の診療所勤務医師数のみが比較的順調に増加しており、また盛岡市内診療所数も増加の一途であることから、医師の病院（勤務医）離れが起こり、診療所志向が進んでいる可能性が示された。すなわち、医師数増加については、地域偏在に加えて、病院勤務や診療所勤務といった勤務形態による偏在も存在している。

（2）臨床研修制度導入による自治体病院常勤医師数への影響

岩手県立病院では、平成14年度（研修制度導入前年）から16年度（同導入後）にかけて常勤医師数が減少した。一方で岩手県の大学病院勤務医師数は増加した。つまり、平成14年度から16年度にかけての岩手県立病院の常勤医師数減少の原因が、研修制度導入による大学病院の自治体病院からの常勤医師引き上げである可能性がある。しかし、研修制度導入前の平成8年度から14年度にかけての医師数増加率は、全国よりも岩手県立病院で明らかに低い。すなわち、研修制度導入に関わらず、岩手県と全国との間には医師数増加の格差（地域偏在）があり、その格差の原因こそが医師数増加を阻む真の原因である。つまり、研修制度は常勤医師数増加の減速因子にはなり得たが、医師不足もしくは医師数増加を阻む根本的な原因とまではいえない。

（3）研究の限界

本研究は対象が岩手県立医療機関に限定されているため、日本全体の傾向を示しているとい

う確証はない。そのため、本研究の結果を解釈する際には、地域性や人口当たりの医師数などを考慮する必要がある。今後は岩手県以外の調査も行い、結果の外的妥当性を高めることが課題である。

謝辞

本研究にあたり、岩手県医療局の相馬敏克様と岩手県医師確保対策室（岩手県庁）の小野寺宏和様から各資料の提供を受けました。大変ありがとうございました。

本研究の概要は、第45回全国自治体病院学会（鹿児島）にて発表した。

文 献

- 1) 竹内啓祐, 福田康伸, 松浦雄一郎, 他. 医師不足実態調査結果. 広島医学2005; 58: 654-61.
- 2) 高橋榮明. 新潟県における医師不足を考える. 新潟県医師会報2006; 662: 10-5.
- 3) 中島幸裕. 医師偏在・不足問題と今次診療報酬改定. 月刊保団連2004; 828: 29-33.
- 4) 杉本順子. 医師不足が自治体病院の経営に深刻な打撃. 社会保険旬報2006; 2290: 10-20.
- 5) 杉本順子. 自治体病院再生への挑戦. 医経営財務協会編. 東京: 中央経済社, 2007.
- 6) 伊関友伸. まちの病院がなくなる!? 東京: 時事通信社, 2007.
- 7) 厚生労働省統計表データベース (<http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/index.html>)
- 8) Kobayashi Y, Takaki H. Geographic distribution of physicians in Japan. Lancet1992; 340: 1391-93.
- 9) 前沢政次. 医師不足要因の虚実とその対策. 社会保険旬報2006; 2288: 22-6.